

(4) -1 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

平成22年度

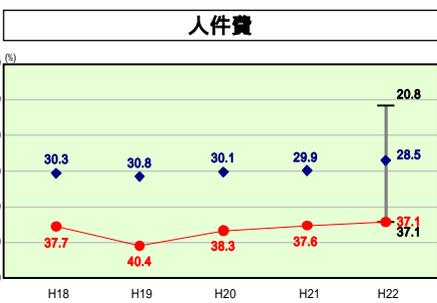
神奈川県鎌倉市

経常収支比率の分析

人口	177,204	人(H23.3.31現在)							
面積	39.60	km ²							
人口密度	4,473.8	人/km ²							
総収入	60,899,815	千円	実績	実績	赤字	赤字	比率	比率	
経常収入	59,358,335	千円	実績	実績	赤字	赤字	比率	比率	
標準財政規模	598,579	千円	実績	実績	赤字	赤字	比率	比率	
地方債	34,864,152	千円	実績	実績	赤字	赤字	比率	比率	
現在高	46,430,308	千円	実績	実績	赤字	赤字	比率	比率	
			市	町	村	類型	H18	H19	H20
			(年	度	毎	H21	H22	H22
							- 3	- 3	- 3
							- 3	- 3	- 3
							48.4	%	

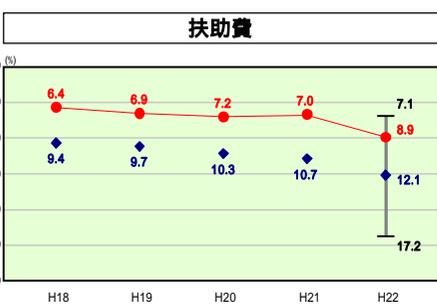


市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。



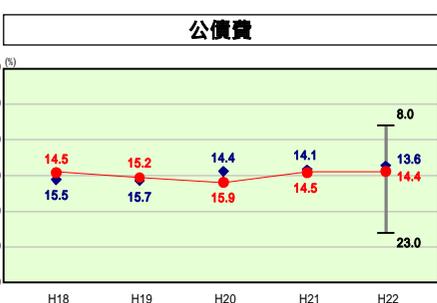
類似団体内順位 29/29 **全国平均** 25.1 **神奈川県平均** 26.0

人件費の分析概
人件費については、職員数の減少、人事院勧告に伴う給与支給額の減及び退職手当支給額の減などにより、前年度より0.5ポイント改善した。しかし、起伏に富んだ地形的特性により消防署が多いことなどから他団体並みまで押し下げることは困難であると認識している。



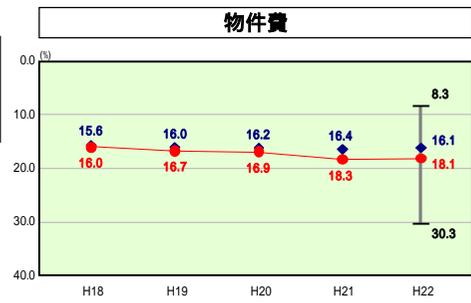
類似団体内順位 5/29 **全国平均** 10.4 **神奈川県平均** 14.1

扶助費の分析概
子ども手当制度発足により、前年度に比べ1.9ポイント悪化しているが、依然として類似団体平均を大幅に下回っている。



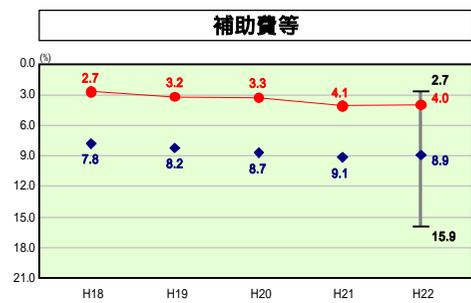
類似団体内順位 18/29 **全国平均** 19.0 **神奈川県平均** 18.2

公債費の分析概
類似団体平均と比較すると、やや高い水準にあるが、平成20年度をピークに過去の高利債償還が進んだため減少傾向にあり、今後も、この傾向を継続するよう努める。



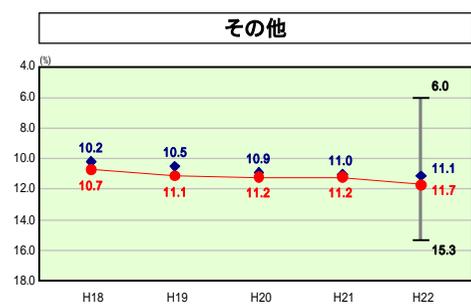
類似団体内順位 23/29 **全国平均** 12.8 **神奈川県平均** 14.7

物件費の分析概
消防車両修繕料の減及び市内遺跡発掘調査対象地の減により、前年度より0.2ポイント改善したが、今後は職員数適正化計画による職員数の減に対応した資金の増や指定管理者制度の推進による委託料の増などの要因により、微増傾向が継続するものと考えている。



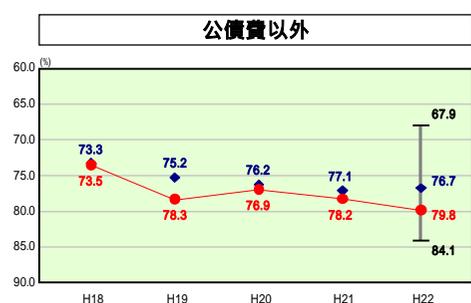
類似団体内順位 5/29 **全国平均** 10.1 **神奈川県平均** 11.3

補助費等の分析概
市税過誤納還付金の減により、前年度より0.1ポイント改善した。補助費等は類似団体平均を大幅に下回っており、今後もこの傾向を継続するよう努める。



類似団体内順位 18/29 **全国平均** 11.8 **神奈川県平均** 10.1

その他の分析概
後期高齢者医療事業特別会計への繰出金が増となったことにより前年度より悪化した。繰出金は、経常収支比率では悪化した。総額では、国民健康保険事業特別会計への繰出金が保険料率の見直し等により、前年度より大幅な減となった。



類似団体内順位 21/29 **全国平均** 70.2 **神奈川県平均** 76.2

公債費以外の分析概
経常収支比率が92.7%から94.2%へ悪化したことにより、公債費以外が前年度より1.6ポイント増加した。経常収支比率悪化の原因は、不景気により市税収入が大幅に落ち込んだことによる。今後は、公債費が減少傾向にあることと、臨時財政対策債(人口基礎方式)の発行可能額が減額することから、公債費以外が増加していく傾向にあると分析している。